巻頭言

私の国際交流体験

広島大学 名誉教授・広島文教女子大学 名誉教授
羽生義正（はぶ　よしまさ）

三年後の日本で二度目の開催となる国際心理学会議に向けて，国際交流の機運の高まりを期待したい。そこで，管見ながら私の体験を述べて，若い学徒諸兄姉の参考に供しよう。

国際学会参加　1972 年，第 20 回国際心理学会議（東京）に参加，ラットでの「情報測度による強化系列パターン効果の分析」を共同発表。1980 年，第 22 回国際心理学会議（ライプツィッヒ）で，後述するハトの実験をドイツ語で報告。第 25 回国際心理学会議（ブリュッセル）では，同実験の再分析をフランス語で報告。1990 年代は，英国心理学会第 8 回心理学史・哲学部会（アバディーン）や，第 4 回ヨーロッパ心理学会（ダブリン）に参加，後述の歴史研究の成果を発表した。

海外滞在と外国人招聘　1978 年と 80 年の 2 回，ドイツ大学交換奉仕会の援助と，後述サザランド氏のお世話で，ルール大学の J.デリウス教授のもとでハトの弁別学習実験をする機会を得た。その後，恩返しに教授を文部省の援助で招聘，国内数ヵ所で講演して頂いた。なお同大学では，スペインの神経生理学者 M.ラミレス氏と知り合い，後に彼が来日の際には，講演や『心理学評論』等への寄稿を頂くなどしてもらった。

1990 年，最初期の心理学者 A.ベインに関する文献調査のため，文部省の短期在外研究で，彼ゆかりのアバディーン大学に滞在し，古文書館に通った。ベインは，ご存知，1850 年代後半に心理学書 2 部作を，またその後『心身相関の理』等を著した人で，明治期，哲学者井上哲次郎らによって日本にも紹介されている。

著訳書を通して　英語論文については，国内誌に数点掲載。訳書等については，講師時代，F.アトニーヴの情報理論の著書を小野茂先生に協力して翻訳。助教授時代，同先生による C.H.クームズらの数理心理学書の編訳で 2 章を担当。また，英国の N.S.サザランド教授の自らの入院体験に基づく心理療法論を，院生の協力で鑪幹八郎氏と共編訳。実は教授とは，故古賀行義先生編の『現代心理学の群像』（協同出版）のなかで彼の認知研究を紹介して以来の縁で，上述のデリウス氏を紹介してくれたのも彼だった。留学生センター長時代，役柄から，わが貝原益軒の学習理念に関するフランス語論文をセンター紀要に寄稿。そして最近，トロント大学の A.クークラ名誉教授の理論心理学の著書を，哲学者を含む諸賢氏の協力を得て訳出したことをつけ加えたい。

Profile ── **羽生義正**
1964 年，広島大学大学院教育学研究科博士課程単位取得。1977 年，文学博士。広島大学教育学部教授，同大留学生（現国際）センター長，同大附属中・高等学校長，徳島文理大学文学部教授，広島文教女子大学人間科学部教授を歴任。専門は学習心理学，心理学史，理論心理学。主な著訳書は『心理学と情報理論』（共訳，ラティス），『数理心理学序説』（共訳，新曜社），『ブレイクダウン』（共編訳，北大路書房），『現代学習心理学要説』（編著，北大路書房），『理論心理学の方法』（編訳，北大路書房）など。